

京都女子大学の望遠鏡の調査研究

京都女子大学附属小学校の反射望遠鏡（以下、京女望遠鏡）の調査を発端とし、今まで認知されていなかった鏡製作者の発見へと至った。天文学史研究において重要なのは、論文だけでなく、研究を支えた人々の調査である。今回、西村製作所にて活躍された鏡製作者である西村末雄氏が発見され、我々の文献調査の範囲において先行する報告がなかったため、西村製作所現会長の西村晃一氏へのインタビュー調査の抜粋と共に、末雄氏についての報告を行った。この発見は日本の天文学の歴史を考察する上で重要である。

京女望遠鏡は1964年西村製作所製のニュートン式（口径20cm、焦点距離1580mm、下図）である。主鏡の製作者は前述の西村末雄氏である。これらの情報は京女望遠鏡の銘板や西村製作所への問い合わせ、飛騨天文台での分解調査（2019年8月26日から28日）により判明した。

また当調査研究での文献調査によって、戦前の京都女子大学と花山天文台との人的な交流がより明らかになった。木辺成麿（花山天文台技官、鏡製作者の第一人者、京都女子大学創始者の甥）をはじめとして、特に藤谷為隆（山本一清初代天文台長の個人秘書、木辺成麿の義理の兄）、上田譲（花山天文台第二代台長、京都女子大学教授）、九条良致（ケンブリッジへ天文留学、京都女子大学創始者の夫）、辻円證（木辺成麿の家庭教師、真宗木辺派の長老、日本天文学会アマチュア会員）について複数文献の情報を集積した。



京女望遠鏡の主鏡および斜鏡（飛騨天文台にて分解調査、参考文献の図5）

Reference: Kawamura, A.D., Nakano, M., & Michikoshi, S., 2020, Stars and Galaxies, vol.3

(河村聡人)